



Start

タスク スケジューラのための便利ツール

取り扱い説明書

Start (スタート)をお選びいただき、ありがとうございます。
この資料では、Start の設定、操作方法などについて説明しています。
お使いになる前に「必ずお読み下さい」をお読みください。

目次

はじめに	3
Start が正常に動作する条件.....	4
必ずお読みください	4
禁止事項	4
責任範囲	5
動作環境	5
ダウンロードと解凍	5
注意事項	6
Start の使い方の流れ	7
フォルダの中にファイルが 1 つだけの場合	7
フォルダの中にファイルが複数ある場合	7
複数のファイルを起動したい場合	8
Start.ini ファイルを作る.....	8
終了する	9
ウイルス対策ソフト側の設定	9
タスク スケジューラを設定する.....	9
PC を 24 時間つけておく	16

はじめに

Start (スタート) は、Windows で自動的にファイルを起動する機能「タスク スケジューラ」を使うときに、ファイルの指定を楽にするツールです。

タスク スケジューラは、Windows に標準で入っている機能で、決まっている時刻や PC を起動したときに自動でファイルを起動することができます。

たとえば PC を起動したら必ずメールをすぐにチェックしているのであれば、メールソフトをタスク スケジューラで指定しておくことで、PC を起動したら自動的にメールソフトが起動します。

とても便利な機能なのですがファイルを直接指定するため、ファイルがバージョンアップして名前が少しでも変わると、自動で起動しなくなります。

ファイル名が Program_Ver001.exe だったのがバージョンアップして Program_Ver002.exe になったら、自動で起動しなくなります。

Start はこれを防ぐためのツールです。ファイル (拡張子が.exe) のうち、名前順で一番最後になるファイルを起動してくれます。

フォルダの中に AAA_Ver001.exe と BBB_Ver001.exe がある場合、BBB_Ver001.exe を起動します。
AAA_Ver001.exe と AAA_Ver002.exe がある場合、AAA_Ver002.exe を起動します。

Start を「アプリケーションが入っている」フォルダの中に入れてから Start を起動すると、ファイルが自動で起動します。

タスク スケジューラで Start を指定した時刻に起動するように設定すれば、ファイルも自動で起動するようになります。

Start が正常に動作する条件

Start は Windows 用プログラムです。

お使いいただくには次の条件を満たしている必要があります。

- Windows7 または Windows8.1 または 10 の日本語版の PC をもっている
- Start で起動したいファイルの名前が大きく変更されないこと

Start は無料でお使いいただけます。

必ずお読みください

Start を**使い始める前**に必ずこの章をお読みください。

この内容にご了承いただいた方のみ、ツールをお使いください。

禁止事項

この資料のファイルを含む、Start (スタート) 関連のすべてのファイルを開発者および提供者に無断で他人に配布することはできません。

インターネットやメールなどで不特定多数の人が手に入れられるようにすることもできません。

また、この資料に書かれている事を抜粋して他人に知らせる行為もできません。

Start を使用して発生するすべての損益は、使用者の責任となります。

ツールの逆アセンブリやコード解析・改造などは禁止します。

責任範囲

Start を使用して発生するすべての損益は、使用者の責任となります。

ツールの動作不具合については、ツール開発側・販売側は一切責任を負いません。

ウィンドウズのアップデートにより不具合が発生した場合、可能な限りプログラム変更で対応いたします。

うまく動かない（または動かなくなった）場合、設定の仕方がよくわからない場合には、まずこの説明書を上から順にお読み下さい。

動作環境

Windows 7 または 8.1 または 10 の日本語版バージョンの最新版でお使いいただけます。

Mac の BootCamp では一部機能が動作しないという報告があり対象外です。

Google ドライブ内での使用、同期を行うフォルダ内での使用もお勧めしていません。

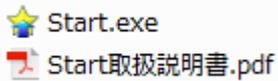
ダウンロードと解凍

圧縮ファイル Start.zip をダウンロードして解凍します。



圧縮ファイル Start.zip

解凍するとツール本体 Start.exe と取扱説明書が表示されます。



注意事項

デスクトップに直接ツール本体 **Start.exe** を置かないでください。
必ずフォルダを作り、その中に解凍してください。

「ダウンロード」のフォルダの中に入れていたものを使わないでください。

ショートカットがどこにあるかは関係なく、
ツール本体 **Star.exe** は
ダウンロードのフォルダ以外、**Google ドライブ**の外に置いてください。

ダウンロードのフォルダの中に新しいフォルダを作ってツールを入れても、
それはダウンロードのフォルダの中であることに変わりはありません。

デスクトップにフォルダを作り、その中にツール本体を置いて使うのが簡単です。

Start は**起動したいファイルと同じ場所**において下さい。

また、「**Google ドライブ**」のように常に他のPCやドライブと同期をしているフォルダ
内での使用もお控え下さい。

以上の条件を満たした場所にツール本体 **Start.exe** を置いてください。

もし **Start** がうまく動作しない場合には、
ツールの公式ウェブサイトから**最新版**をダウンロードしてください。

Start の使い方の流れ

Start は次のように使います。

もしウイルス対策ソフトを使っている場合には、起動したいファイルが入っているフォルダを「例外」に設定してください。

*説明書の後半にもこのことについて書いていますので参考にしてください。

フォルダの中にファイルが1つだけの場合

起動したいファイル（拡張子が.exe）だけがフォルダの中に入っている場合は次のようにします。

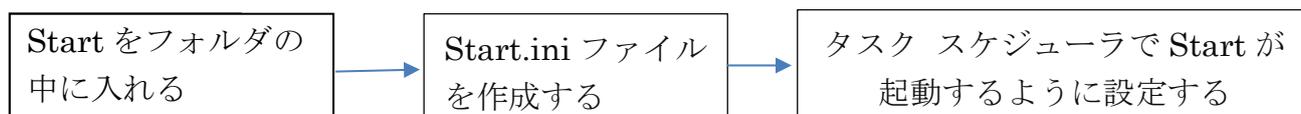
テキストファイルやフォルダと一緒に入っていてもかまいません。



フォルダの中にファイルが複数ある場合

起動したいファイル（拡張子が.exe）が入っているフォルダの中に、他のファイル（拡張子が.exe）が入っている場合には、次のようにします。

テキストファイルやフォルダと一緒に入っていてもかまいません。



複数のファイルを起動したい場合

フォルダの中に起動したファイル（拡張子が.exe）が複数あり、どれも起動したい場合にも、上の「フォルダの中にファイルが複数ある場合」の方法で可能です。

Start.ini ファイルを作る

起動したいファイル（拡張子が.exe）が入っているフォルダの中に、他のファイル（拡張子が.exe）が入っている場合には、このフォルダの中に **Start.ini** ファイルを作成します。

メモ帳ソフトを起動します。
起動したいファイルの名前の一部を書きます。

たとえば、
ファイル名が **Program_Ver001.exe** で、
バージョンアップすると **Ver** から後の部分の数字が **002** のように変わるのであれば
メモ帳には **Program_Ver** または **Program** と書きます。

ファイルの名前を **Start.ini** として、フォルダの中に保存します。

このフォルダの中に起動したいファイルが複数ある場合には
メモ帳に1行に1つのファイルの名前の一部を書きます。

たとえば、
起動したファイルが **AAA_Ver001.exe** と **BBB_Ver001.exe** の2つ同じフォルダの中に入っている場合には
メモ帳には
AAA_Ver
BBB_Ver
と書いて下さい。

終了する

Start は自動で終了するため、何もする必要はありません。

ウイルス対策ソフト側の設定

PC にウイルス対策ソフトを入れて使っている場合、Start をブロックしないように設定してください。

設定はソフトによって異なりますが、多くの場合「例外」という項目があり、そこで Start の入っているフォルダ指定します。

フォルダが指定できない、またはフォルダを指定してもブロックされる場合には、Start.exe と Start を指定してください。

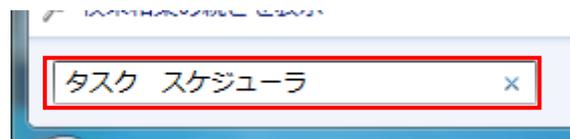
詳しい設定方法については「ウイルス対策ソフト名 例外」などのキーワードでネット検索をしてください。

タスク スケジューラを設定する

Start を自動で起動するには、Windows の「タスク スケジューラ」の機能を使います。この機能を使うと、指定した時刻に指定したプログラムを実行することができます。Windows7 の場合で説明します。

タスクスケジューラを起動する

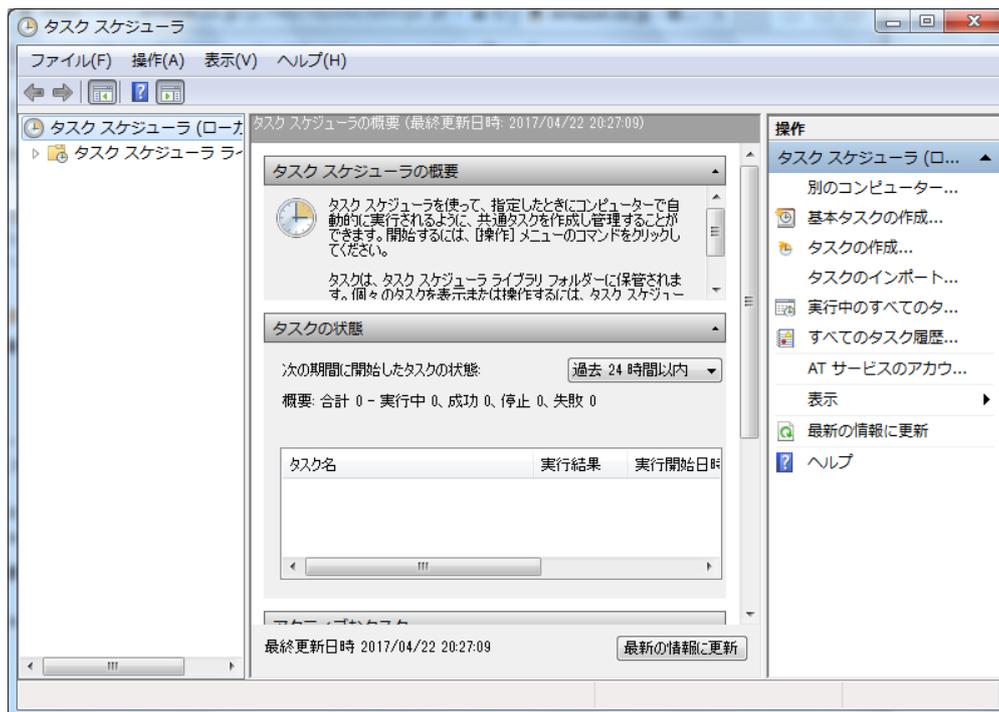
デスクトップの左下の検索窓に「タスク スケジューラ」と入力してください。



するとタスクスケジューラが見つかりますので、クリックしてください。

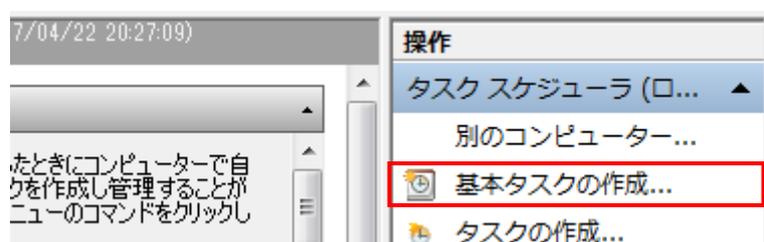


タスクスケジューラのウィンドウが表示されます。

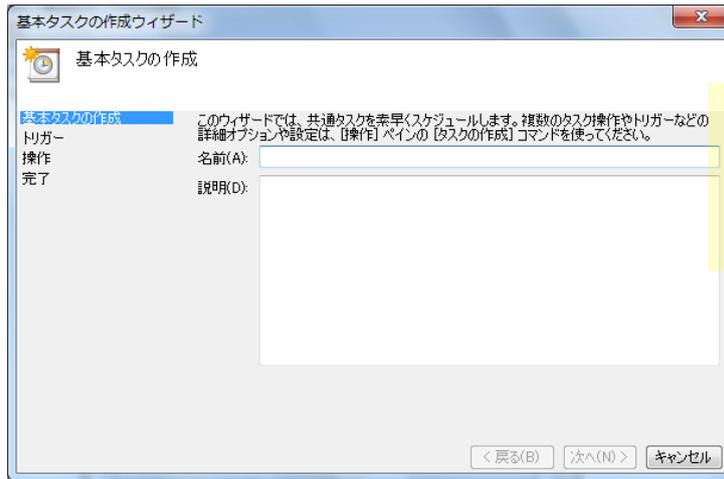


タスク スケジューラのウィンドウ

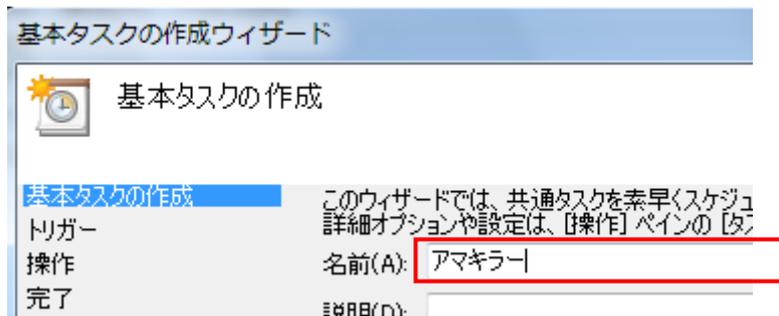
「基本タスクの作成」をクリックします。



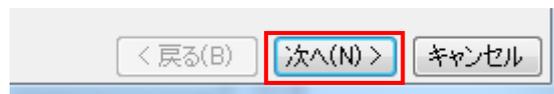
「基本タスクのウィザード」が表示されます。



「名前」にわかりやすい名前を入力して下さい。
たとえば「スタート」などです。



[次へ] ボタンをクリックして下さい。



いつ **Start** を起動するのか選択します。
「毎日」を選択します。

基本タスクの作成	いつタスクを開始しますか?
トリガー	<input checked="" type="radio"/> 毎日(D)
操作	<input type="radio"/> 毎週(W)
完了	<input type="radio"/> 毎月(M)
	<input type="radio"/> 1回限り(O)
	<input type="radio"/> コンピューターの起動時(H)
	<input type="radio"/> ログオン時(L)
	<input type="radio"/> 特定イベントのログへの記録時(E)

[次へ] ボタンをクリックして下さい。

< 戻る(B)	次へ(N) >	キャンセル
---------	-------------------	-------

「開始」の時刻の欄に Start を起動したい時刻を設定します。

基本タスクの作成	開始(S): 2017/04/22	20:36:33	<input type="checkbox"/> タイムゾーンにまたがって同期
トリガー	間隔(C): 1	日	
毎日			
操作			
完了			

[次へ] ボタンをクリックして下さい。

< 戻る(B)	次へ(N) >	キャンセル
---------	-------------------	-------

もう一度

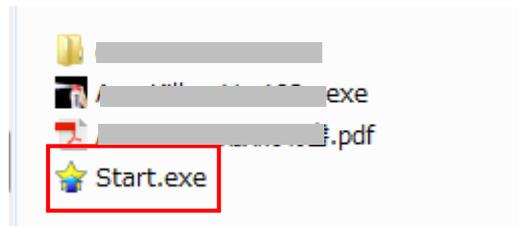
[次へ] ボタンをクリックして下さい。

< 戻る(B)	次へ(N) >	キャンセル
---------	-------------------	-------

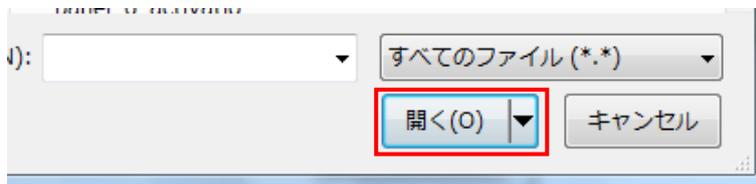
[参照] ボタンをクリックしてください。



Start.exe を選択してください。



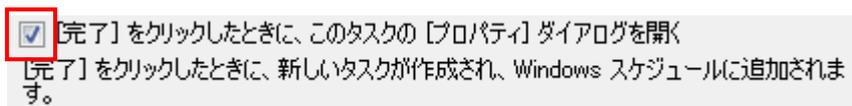
そして [開く] ボタンをクリックします。



[次へ] ボタンをクリックして下さい。



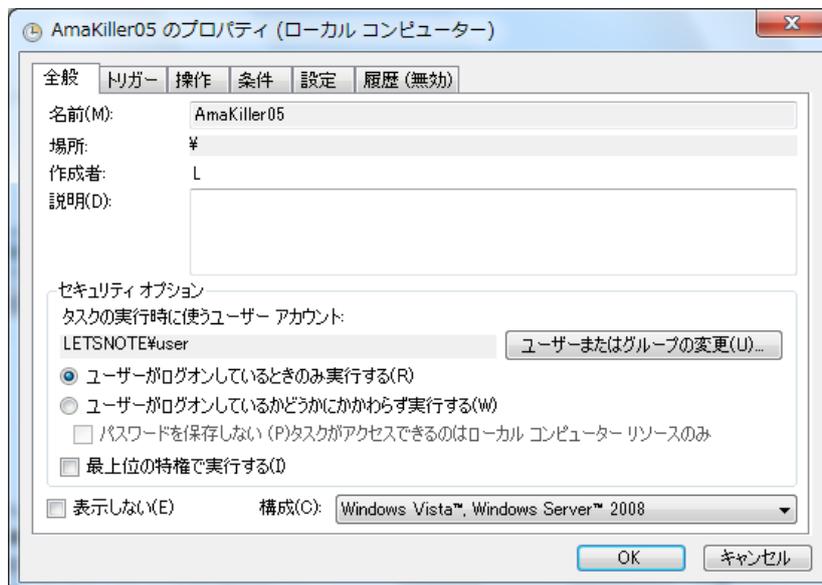
「 [完了] をクリックしたときに、このタスクの [プロパティ] ダイアログを開く」にチェックを入れます。



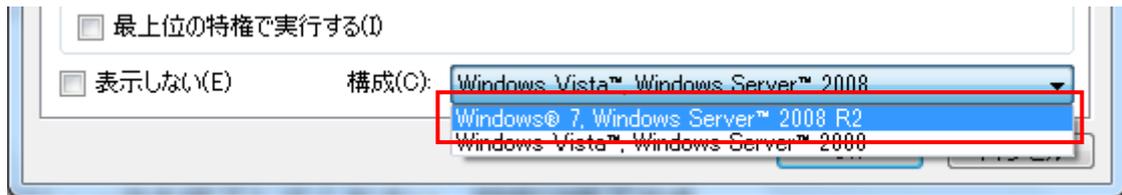
[完了] ボタンをクリックしてください。



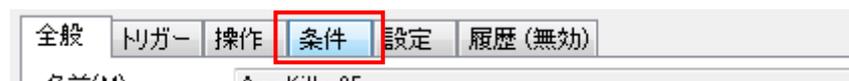
プロパティのウィンドウが表示されます。



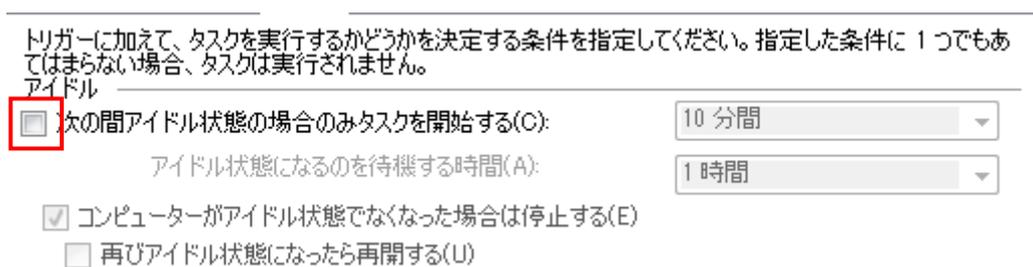
「構成」で「Windows 7,Windows Server 2008R2」を選択します。



「条件」のタブをクリックします。



「次の間アイドル状態の場合のみタスクを開始する」のチェックを外してください。



[OK] ボタンをクリックします。



タスクスケジューラを終了してください。設定は終了です。

これで PC の電源が入っていて Windows にログインした状態になっていれば、いつも決まった時間に Start は起動します。

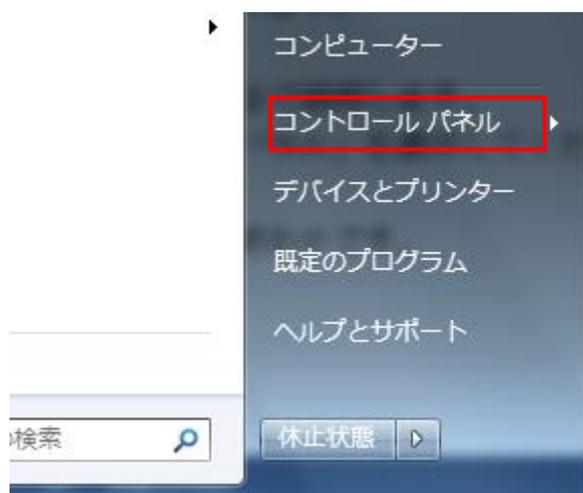
1日に複数回 Start を起動したい場合は、回数分だけタスクスケジューラで設定してください。

PC を 24 時間つけておく

夜中や外出中などにも PC の電源はつけておき、Start を自動で起動・報告・終了したい場合、タスクスケジューラの設定と Start 側の設定の他に、Windows 側で設定が必要です。Windows に通常の設定では「PC が一定時間経つとスリープや終了」になります。この設定を変更します。

Windows7 の場合で説明します。

「コントロールパネル」を表示してください。



「電源オプション」を起動します。



「電源プランの選択」で、現在選択されているプランの右側にある「プラン設定の変更」をクリックします。

電源プランの選択

電源プランによってコンピューターのパフォーマンスを最大にしたり、電力を節約したりできます。プランを選択してアクティブにするか、プランを選択してから電力設定を変更することでカスタマイズしてください。[電源プランの詳細](#)

プランはバッテリー メーターに表示されます



プラン設定の変更

「ディスプレイの電源を切る」と「コンピューターをスリープ状態にする」で「なし」を選択してください。

ディスプレイの電源を切る:

なし

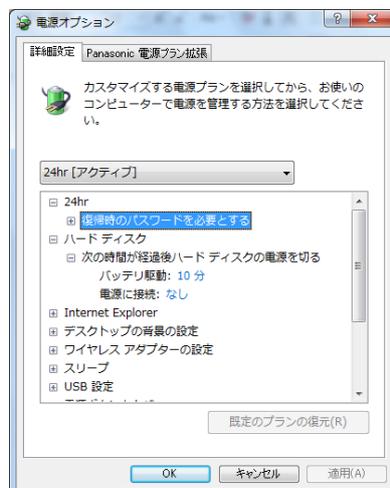
コンピューターをスリープ状態にする:

なし

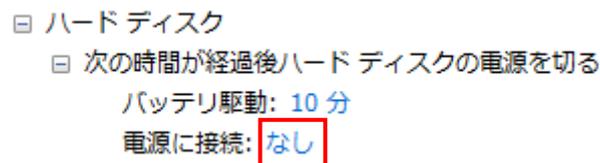
「詳細な電源設定の変更」をクリックします。

詳細な電源設定の変更(C)

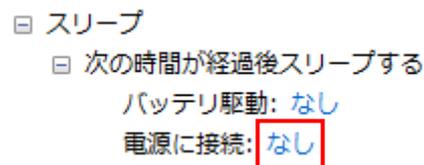
「電源オプション」のウィンドウが表示されます。



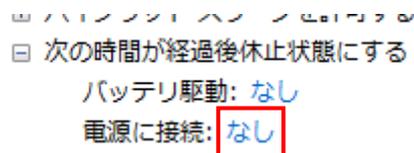
「ハードディスク」で「次の時間が経過後ハードディスクの電源を切る」をクリックし、「なし」に設定してください。



「スリープ」で「次の時間が経過後スリープする」をクリックし、「なし」に設定してください。



「次の時間が経過後休止状態にする」をクリックし「なし」に設定してください。



[OK] ボタンをクリックします。



「プラン設定の編集」のウィンドウで [変更の保存] ボタンをクリックしてください。



コントロールパネルのウィンドウを閉じてください。

これで PC は自分で終了させない限りは、電源がついた状態になります。

以上で説明書は終わりです。

2017 年 4 月吉日

Start 開発元 **アクセルツールズ**

アクセルツールズの連絡先

<http://accltools.com/>